



2017年11月19日の譲渡会にて

1/産後離乳した状態で保護された子猫。治療を受け、今はふっくらとして元気。新しい家族との出会いを待つ。2/姉妹の猫は同じケージでびったり寄り添う。2匹一緒にもらっていただけたら嬉しい。3/この日は14匹の猫が参加。名前や性格が貼り付けられたケージが並ぶ。4/譲渡会に参加できなかった犬猫の里親も張り紙で募集。甘えん坊の子、人見知りの子、片目が見えない子など、性格や肉質も加味随分書かれている。5/NPO法人 福井犬・猫を救う会(代表・藤永さん(左))とメンバーの皆さん



いのちを預かる ということ。

身よりのない犬猫たちを新たな家族へ受け渡す活動を行う「NPO法人 福井犬・猫を救う会」。譲渡の活動を通して、「犬や猫を飼う」ことをあらためて考えてみました。

大切な命だから、
条件をしつかり吟味。

犬や猫と暮らしたいと思ったとき、保護された犬や猫を引き取るという選択がある。「NPO法人 福井犬・猫を救う会」では、ひと月に1回譲渡会を実施。これまでに犬と猫合わせて約1000匹を新しい家族の元へ送り届けてきた。「ペットショップへ行かなくても、一緒に暮らせる犬猫はたくさんいることを、もっと多くの人に知ってほしい」と代表の藤永隆一さんは話す。

同会が保護するのは、病気やケガをしていたり、危険な環境で暮らし、大猫たち。メンバーの自宅で預かり、ケガや病気があれば治療し、不妊・去勢手術も行う。譲渡会に参加できるのは、万全な体調になってからだ。そうした健康管理に加え、徹底しているのが譲渡条件。飼いたいという希望者がいても、原則会場での譲渡はしない。まずは住環境や生活スタイルに関するアンケートに答えてもらい、さらに検査や予防接種にかかる費用など、飼育の注意事項を事細かに説明。高齢者であれば、近くに子どもが住んでいるかなど、万が一世話をできなくなった場合にも引き受け手があるかを確認す

る。その後メンバー同士で話し合い、適切だと判断すれば譲渡先が決定。数週間ほど一緒に暮らし、トライアル期間を設ける場合もある。「家族となるからには、最後まで面倒をみるのが大前提。一度保護した犬猫たちに未永く幸せに暮らしてほしいので、吟味は怠りません」

飼いやマナーに関する啓発も積極的に行う。特に猫は1年に2〜3回出産するので繁殖率が高く、不妊・去勢手術をしていない野良猫に餌付けをしたり放っておくことが不幸な猫を増やすことに繋がるという。そこで自治体とも協働し、野良猫の不妊・去勢手術費用の助成事業を開始。繁殖防止を呼びかけている。

昨年度、県内で殺処分された犬や猫は約150匹。人間の都合に左右され、行き場をなくす犬や猫たちがいることを忘れてはならない。「だから、誰でも簡単に飼えるわけではないんです」という、藤永さんの言葉にはずっしりとした重みがあった。

NPO法人 福井犬・猫を救う会

2002年より、犬猫の保護と譲渡活動を開始。正会員22名とボランティアで活動し、保護した犬猫の治療や飼育にかかる費用は、正会員や支援者の寄付でまかなう。毎月第3日曜(※定休日あり)に譲渡会を開催。次回は2/18(日)10時〜16時(福井市)にて、ホームページ上でも保護した犬や猫の情報を発信中。
www.fukui-dogcat.com